

学生 インタビュー

Profile

きもの専攻科 舟幡 優花さん

[神奈川県立生田東高等学校出身]

小さいころから手先を使ってモノづくりをするのが好きだった。
織田きもの専門学校で様々な角度からきものを学んでいる。

Q&A

Q 趣味・特技は？

A 野球を見る。最後まで勝敗がわからないところが好きです。

Q 理想の休日の過ごし方は？

A 友人と何気ない話をしたりカラオケで思い切り歌ってリフレッシュしたり。

Q 最近感動したことは？

A U-18の国際野球試合で日本代表が世界一になった瞬間。

Q 人生で一番の失敗は？

A 小さいころにお母さんと一緒に作ったケーキをひっくり返したこと。幼心にはショック。



知れば知るほど惹かれていく。
個性あふれるきもの魅力。

その時代を生きた人たちの、

考え方が詰まったきもの

舟幡さんがきものに興味を持ち始めた時期やきっかけについて教えてください。

舟幡 中学生の頃に社会科の教科書を通して日本文化を知ったことが、きものに興味を持つきっかけでした。当時着ていたきものが時代背景や生活様式に深く関係していて、これは面白いなと思いました。

全然違う生活を営んでいた時代の人たちの意図がきものには隠されていますよね。何もかもが変わっているのであまり馴染みがないです(笑)。

舟幡 そうですね。その時代のきものによって、身分を表すようなものがあったり、祭儀で使用されるものがあったり、快適に生活するための工夫が凝らされているも

のがあったり。当時の人たちの考え方が見えるのはとても興味深いです。平安時代の十二単は有名ですね。

教科書に出てくる衣服の中でもかなりインパクトがあります。きもの学校に進学しようと思ったのも中学生の頃でしたか？

舟幡 いえ、高校生の頃です。大学に行って学びたいことも思い浮かばないし、何か技術を身につけられる学校はないかなと探していたときに見つけたのが織田だったんです。和裁ははじめてでしたが、手先を動かしてじっくり作業するのは好きでしたし、オープンキャンパスに参加して自分に合っていると思い進学を決めました。



一人ひとりの

個性が出る作品づくり。

難しくても奥深く完璧はまだない

そして今現在、和裁を実際に学んでたくさん作品を作っていますね。舟幡さんの好きな授業は何でしょうか？

インタビューの続きはWebで



きもののプロを育てる織田のプログラム

Point
1

担任制による 細やかなサポート

きもに関する一つひとつの知識・技術を確実に身につけてほしいから、少人数制による授業を実施。学生一人ひとりの顔が見える教室では、教員とのコミュニケーションが取りやすく、分からないことはすぐに質問できる環境が作られています。授業時間以外でも質問や相談ができます。



Point
2

織田ならではの 取り組み

普段はなかなか見ることのできない、松竹衣裳株式会社の講師が舞台衣装の着付けを実演する授業や、販売やスタイリングを通して実践的な技術を学べる企業様とのコラボレーション授業を積極的に行っています。また、日本の伝統衣装であるきもの魅力を世界へ発信する海外研修なども行っています。

Point
3

きものの全てを 学ぶ

きものを仕立てる技術だけでなく、デザイン、染色、日本刺繍、着付け、ヘアメイク、日本文化などを学ぶことで、きもに関する幅広い知識と技術が身につきます。きものすべてを学ぶことは、将来の選択肢を広げることに繋がるのです。





半衿

[きもの科2年生]

日本刺繍を施し、半襟を製作。自身で絹糸を縫り合わせるため、製作者によって作品の表情が変わる奥深い技法です。

学生作品紹介



振袖

[きもの科2年生]

ろうけつ染めを用いて白生地をステンドグラス模様染め、振袖を縫製。クラゲが海の中できらめく様子を表現しています。



振袖

[きもの科2年生]

ろうけつ染めを用いて白生地に染色し、振袖を縫製。古代パレスチナのファムファタル「サロメ」をモチーフにデザインしています。

打ち掛け

[きもの専攻科]

友禅染めを用いて白生地に染色し、打ち掛けを縫製。部分的に金彩を施してアクセントにしています。



単衣長着

[きもの科1年生]

型染めを用いて洋服地に染色し、単衣長着を縫製。女王蜂をイメージしてデザインしています。



第一線で活躍する先輩たち

60余年の歴史で築き上げた業界との繋がり

舞台衣装
営業

松竹衣裳株式会社

遠藤 麻衣さん

2005年 きもの専攻科卒業
[東京都立鷺宮高等学校出身]

織田で学んだ和服に関することはすべて、現在の仕事に活きていると思います。私の仕事は舞台衣装(おもに和服)の貸し出しと、それに付随する着付け・メンテナンス・加工などをすることですが、衣装を作る上で基礎知識があるということが自分の自信に繋がっています。衣装の知識を増やし、誰も見たことがないものを創ったり、誰もやったことがない画期的な方法を考えたり形にすることが、これからの目標です。

株式会社ジョイフル恵利 20Lab.

渡邊 麗乃さん

2021年 きもの専攻科卒業
[東京都立青梅総合高等学校出身]

ハタチを祝う会などで振袖を着用するお客様に、振袖やコーディネートのご提案をしたり、前撮り・後撮りの際にメイクや着付を行っています。撮影される方の半衿を縫ったり、お客様から振袖のサイズ感や柄の意味などを聞かれることも多いのですが、織田で学んだ幅広い技術と知識のおかげで対応することができています。授業や課題はもちろん、友達と古着屋へ行ったり、着物で出かけたり、織田で過ごした着物盛り沢山の学生生活は、いまの私の大きな強みになっています。

振袖コーディネーター・着付師

織田で過ごす一日

織田きもの専門学校で過ごす学生たちの一日に密着！
アットホームな雰囲気の中で伸び伸びと学生生活を楽しんでいます。

おはよう！



8:45 am 登校

駅から徒歩1分のキャンパスだから、
朝も通学が楽々です。

集中して
作業…



資料請求をして

実物を手に取ってみよう！

だき
ま〜す



12:10 pm お昼休み

お弁当を持ってきたり、近所のお店でランチをしたり。
駅近の校舎なので、なんでも揃います。

9:00 am 午前の授業

被服の授業では
細かい作業をおこなうことも。
ひと針に想いを込めて
集中して進めます。



また明日～



4:10 pm 放課後

放課後は被服の続きや、
次のショーに向けてのミーティングをすることもあります。

1:00 pm 午後の授業

着付けの授業では
お互いに直し合うなど、
和気あいあいとした
雰囲気で学ぶことが
できます。

